

資料からさぐる

沖縄の製藍技術

の変遷史



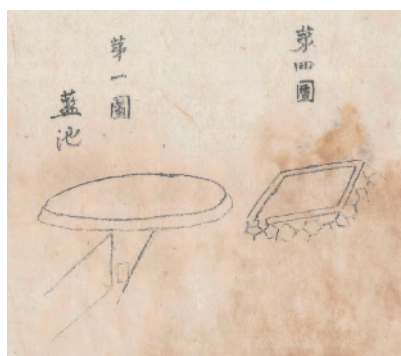
やんばるの山中にのこる玉壺の遺構



玉壺にみられる排水孔



藍壺の遺構



西常史文書「沖縄の染織工程」の中の絵図

6.14 土

入場無料

14:00~16:00
(開場 13:30)

講師 大湾 ゆかり (民俗担当学芸員)

会場 沖縄県立博物館・美術館
3階 講堂

受付 当日先着 (定員 200 名)

お問合せ 098-941-8200
〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1

沖縄の染織文化を彩る藍染料には、リュウキュウアイやナンバンコマツナギ等の植物を加工した沈殿藍が用いられています。その始まりはいまだ定かではありませんが、少なくとも 15 世紀末から現在に至るまで、沖縄ではこれらの植物を育てて沈殿藍を作り出す技法が伝わってきました。

本講座では、主として歴史資料に記述されてきた内容をもとにリュウキュウアイの栽培と製藍技法を比較し、沖縄の製藍技術の変遷について考察します。

※駐車場の混雑が予想されますので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
※席数に限りがありますので、ご入場いただけない場合があります。予めご了承ください。
※会場内は空調の影響で寒くなる場合があります。

次回予告

2025. 7.12 土 14:00 ~ 16:00 (13:30 開場)

博物館学芸員講座

「第一尚氏王統期のグスク
— 縄張りの完成形を見る —」

講師 山本 正昭 (考古担当)

